

小学部3段階

思考力、判断力、表現力等		評価
A 聞くこと・話すこと	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。 ※児童が読み聞かせなどを通して、出来事の内容の大体を理解すること	
	イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。 ※絵や写真などを手掛がかりに、経験したことを振り返り、伝えたいことを検討すること	
	ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。 ※見聞きしたことなどのおおよそやその際の自分の気持ちなどについて当てはまる言葉を探すこと ※話す順番などについて検討したりすること	
	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 ※相手への伝わりやすさを意識して、話すことの基礎となるもの	
	オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。 ※正しい姿勢で音読をするなどの活動 ※明瞭に発音することに加え、相手との距離や場面に応じて声の大きさに気を付けて話すこと ※相手の感想を受けて、児童が適切な話し方を身に付けていく活動など	
カ 相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。 ※相手の話に関心を持ち、話のおおよそを捉え、感じたことを述べたり、相手の話を受け止めたりすること		
B 書くこと	ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。 ※書くために必要な事柄を思い出したり想像したりする ※ノートやカードに書き出したり、言葉を補う写真や絵などの資料を集めたりすること	
	イ 見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。 ※経験した順序や説明する際の具体的な内容の順序など事柄の順番に沿って簡単な構成を考えること ※文章の始めから終わりまでを、内容のまとまりごとに、「始め－中－終わり」などの構成に沿って配置していくことが大切	
	ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。 ※取り上げた対象や自分の思いを文字として書き表すこと ※取り上げた対象や自分の思いを伝えたり、思い返したりすることができる楽しさを実感させることが大切	
	エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。 ※事柄の順序、語と語や文と文との続き方、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方などを意識しながら、書いた語句や文を読み返し、教師の指導を受けながら、正しいものに書き直すこと	
	オ 文などに対して感じたことを伝えること。 ※書かれたものに対して分からないことについて質問をしたり、感想を述べたりすること ※中学部1段階の「文章に関する感想をもつ」ことにつながる	
C 読むこと	ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。 ※三つから十くらいの場面や段落で構成された読み物 ※挿絵を手掛かりに、登場人物の行動や場面の様子などを想像すること ※登場人物の表情や気持ち、場面の様子から時間的経過や場面の前後関係に気付くことができるように、教師の助言が必要	
	イ 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。 ※全体に何が書かれているかを大づかみに把握すること ※挿絵を並び替える、簡単な小見出しを付けるなどの活動など	
	ウ 日常生活で必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。 ※児童の家庭や学校、地域での生活に必要なとされるきまりや立て札、標識に書かれた言葉に沿った行動をすること ※児童の実態や生活環境に応じたものを選んで指導することが望ましい ※文字の読み方のみにこだわらず、どこにあるものなのか、全体の文字、記号、絵が何を表しているのかなど、具体的な活動を通して学習することが重要	
エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。 ※音読したり演じたりすることにより、読みの世界を広げること ※自分の経験と結び付けて、想像を広げたり、理解を深めたりすることができるよう教師が働き掛けること		

知識及び技能		評価
ア 言葉の特徴や使い方	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。 ※物事の内容を表す言葉の働きに気付くこと	
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。 ※背筋を伸ばし、声を十分出しながら落ち着いた気持ちで話すこと ※正しい発音のために、唇や舌などを適切に使うこと	
	(ウ)日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。 ※絵本や易しい読み物、わらべ歌、テレビやコンピュータの画面に出てくる促音、長音等の含まれた語句や短い文、平仮名、片仮名、簡単な漢字などを取り扱うこと	
	(エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ※動物や果物の名前を表す語句、色や形を表す語句など、相互に関係のある語句 ※児童の興味・関心や生活、使う場面に即して、使用する語句の量や範囲を広げる	
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。 ※例えば、具体的な場面や挿絵を用いて、2語から3語で構成する文を題材に主語や助詞が変わることで表す状況が変化することを理解することなど	
(カ)正しい姿勢で音読すること ※正しい姿勢を体感させる ※明瞭な発音で文章を読むこと、ひとまとまりの語や文として読むこと、言葉の響きやリズムなどに注意して読むことなどが重要		
イ 情報の扱い方	(ア)物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。 ※物事を時間や手順に沿って順序立てて捉えることが必要 ※言葉が物事の内容を示し、他者と共有することができることを知る上で設定	
	(イ)図書を用いた調べ方を理解し使うこと。 ※目的をもって図書資料を読むために、図書を用いた調べ方を理解し、調べること	
ウ 我が国の言語文化	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ※昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなど ※真似をしたり、簡単な劇や音読を発表し合ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと	
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。 ※教師や友達などと出来事や経験について伝え合う活動 ※自分とは異なる表現の仕方などで伝えているなど、教師や友達などが使ういろいろな語句や表現に触れること	
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ※書いたものを読む相手、書き表す素材やマス、行の大きさ、書く量などに合った筆記具を教師の助言の下に選ぶこと ※文字や記号、それらを補う図や絵を書くこと	
	⑧姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。 ※伝えたいことがはっきりと伝わるように書く力を児童にもたせる上で基礎となるもの	
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。 ※図書資料には様々な種類があることを知ること ※児童が読み聞かせられた絵本や図鑑を自ら手にとり、読書の幅を広げられるように、読書環境を整えることが重要	

※網掛けなし…題材の中心で指導する内容

※網掛けあり…題材の中心で指導するののか題材を通して指導するののかを検討して取り上げる内容

国語科チェックリスト

年度	調査者	備考

大分大学教育学部附属養護学校

児童・生徒名 ()

表-1

児童・生徒名 ()

主な障害・病名	実 態	
表出にかかわる障害	ある⇒例) ない	・構音障害で、特定の言葉しか言えない ・聞き取りにくい
聴覚機能にかかわる障害	ある⇒例) ない	・〇〇(病名)で聞こえにくい
視覚機能にかかわる障害	ある⇒例) ない	・視力が弱い。斜視や眼球振動の障害をもつ
手指機能にかかわる障害	ある⇒例) ない	・麻痺のため、鉛筆を握る力が弱い
障害にかかわる実態の解釈及び、指導の方向性		例) ・言語表出ができにくい子どもなので、「話す」は、実態調査をする と低い段階に位置するであろう。 他の3領域の力を加味してグループ編成をすることが望ましい

学習態度に関する実態調査

表-2

児童・生徒名 ()

項 目	視 点	評価(○=よい、△=大抵よい、×=悪い)				
①学習への参加	・着席行動					
	・視線、姿勢					
	・教師の問いかけへの反応					
	・積極性(挙手など)					
②課題の引き受け方	・有効な課題					
	提示の方法					
③課題意識の持続	・課題意識が1単位時間持続するか					
④発言の傾向性	・他の子どもの発言を聞いた後の発言の傾向性					
⑤教具や資料への興味や取り組み	・教具や資料に興味を持つか					

「話す」実態調査の仕方

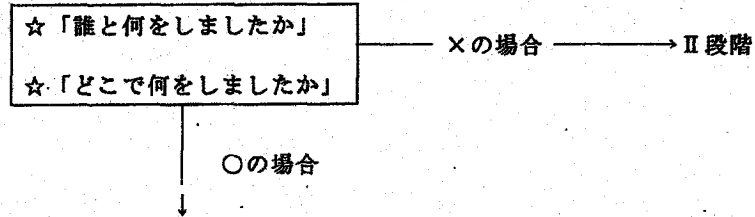
1. 実態調査を始めるにあたって

(1) 調査を始める段階を決める

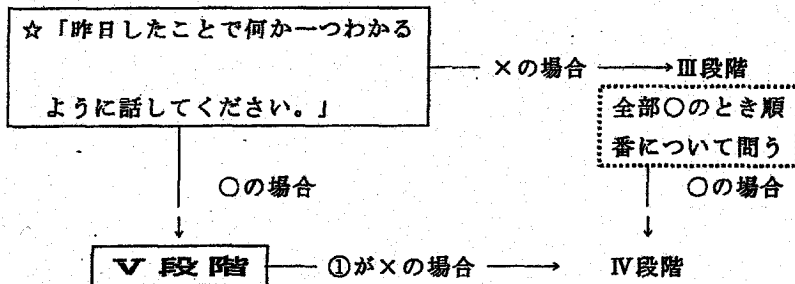
以下のように、日常生活の中で問いかけてみて、その話の内容から、子どものおよその段階を決める。そして、その段階の実態調査をする。

① 日常生活の中で以下の問いについて話させる。

人（場所）と活動をつないで話せれば○とする。



② 昨日のことを話題にして、以下の問いについて話させる。「誰、どこ、何をした」を入れて自分のしたことや他の人のしたことを2～3文で話せれば○とする。



(2) 評価について

子どもの話についての評価は、○（できる）、△（できることがある）

×（できない）でつける。

(3) 調査中に留意すること

① 表中に記述している段階から始めて、その段階の項目全てについて調査する。

② ○がついた項目については、調査日の年月日を記入する。

3. 各段階ごとの実態調査の仕方について

（以下、数字は、指導内容表の大項目、カタカナは、小項目を示す。）

調査を始める段階が決まったら、その段階の調査表にそって実態調査をする。実態調査にあたっては、集団で調査することが望ましいが、他の子どもの発言によって正しい実態が取れないと判断した場合は、個別に調査する。

《 I 段階 》

○準備物：先生の写真数枚、友だちの写真数枚 [④]

・遊具、文具、食物、身体部分の実物（絵や写真でもよい）
・ [⑤、⑥]

○調査方法：①②……授業の中で調査する。

③……生活場面で調査する。

④⑤⑥……個別に実物（絵や写真）を見せたり、動作をして見せたりして調査する。

⑦……お店を作り、食物の模型などを並べて買い物に行かせ、調査する。

《 II 段階 》

○準備物：乗り物、動物、遊具、施設名、動作語についての絵カード、場所の写真 [①、②]

・ふたつきの箱、果物模型 [④イ]

○調査方法：A→B→Cの順に調査する。

A ①絵カード（写真）を提示したり、動作化して見せたりして、調査する。
②生活場面で調査する。

B 体育館や運動場などの子どもが日頃使う機会の多い場所で、すもうなどの2人組でできる遊びをさせる。一緒に活動する人は、仲のよい友だちや教師であること。活動中や、活動した後に、その場で、
⑤→③→ウ→イ→ア→⑥アの順に調査する。⑥まで調べたら、別の場所に移り、⑥イを調査する。

- C ④ア. 給食の時間に調査する。
イ. 個別に調査する。

《 III 段階 》

○準備物：・カップラーメン、お湯、どんぶり、はし

[①アイウエ②アイウ]

○調査方法：A→Bの順に調査する。

- A プレイルームや教室などの子どもが日頃使う機会が多い場所で、2人組でカップラーメンを作らせ、食べさせる。その後、まず、活動直後に全く違う部屋で、次に活動した場所で以下の項目順に話させる。

② ウ→イ→ア→

① ウ→エ→イ→ア

- B ③ア. 調査表の質問事項を調査する。
イ. 調査表の質問事項を調査する。

《 IV 段階 》

○準備物：・インスタントラーメン、なべ、どんぶり、はし

[①アイ. ②③アイ]

○調査方法：A→Bの順に調査する。

- A 友だちと一緒にインスタントラーメンを作らせ、食べさせた後、
自分の様子や食べた様子、友だちの様子がよくわかるように話させ、
と言って話させ、それぞれの小項目について分析する。
(順序がはっきりしていて、様子がよくわかるような活動ならばラーメン作りでなくてもよい)

- B ①ア→イ→②→③ア→イの順に
実態調査の質問事項を調査する。

《 V 段階 》

○準備物：・インスタントラーメン、なべ、どんぶり、はし

[①アイ. ②アイ]

○調査方法：A→Bの順に調査する。

- A 友だちと一緒にインスタントラーメンを作って食べさせ、片づけさせる。その際は、用具の準備、ラーメン作り、食べる時、片づけなどの場面の区切りを意識させるように仕組む。その後、

「ラーメン作りをした後、見たこととお母さんにお話をしよう」と話させよう。

と言って①アイについて分析する。(場面の区切りがはっきりしている活動ならばラーメン作りでなくてもよい)

- B. 動物小屋に連れて行き、動物にえさやりをさせたり、動物の様子を観察させたりした後、

「動物小屋で見たこととお母さんにお話をしよう」と話させよう。

と言って②アイについて分析する。(様子がとらえやすい活動ならば、動物小屋の活動でなくてもよい。)

大項目		小項目	実態調査の方法（教材と発問）	評価の視点	評価（○できる △時々できる ×できない）							
I 段 階	①名前を呼ばれたら、返事をする	・「〇〇君」と呼ばれたら、「はい」と返事をする	・授業の中で「〇〇君」と名前を呼ぶ	・「はい」と返事をする								
	②自分の名前を言う	・「おなまえは？」と聞かれたら、「〇〇（です）」と言う	・対面して「おなまえは？」と問う	・姓名を言う ・幼児語を使う場合は、△								
	③簡単なあいさつの言葉を使う	ア. 「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「いただきます」「ごちそうさま」などを使う	・生活場面で観察する	・自分から言う おはよう さようなら ありがとう いただきます ごちそうさま								
	④友だちや先生の名前を言う	ア. 「これは誰ですか」と問われて名前を言う	・友だちや先生を指さして、「これは誰ですか」と問う	・姓または、名前を言う								
	⑤生活の中で触れたり、見たりする機会の多い物の名前を覚えて言う	ア. 遊具、文具、食物、身体部分の名前、身につける物の名前を覚えて使う イ. 「これは何ですか」の問いに答えて「〇〇」と言う	・実物を示して、「これは何ですか」と問う	・以下の単語で調査する ぶらんこ すべりだい テレビ 砂場 つくえ いす クレヨン 鉛筆 本 バナナ りんご みかん パン 牛乳 ジュース ごはん だいこん にんじん 目 耳								

飛行機									
船									
ぞう									
くま									
きりん									
さる									
ライオン									
ねこ									
いぬ									
うさぎ									
ねずみ									
鳥									
ままごと									
カルタ									
かけっこ									
すもう									
ボーリング									
野球									
サッカー									
デパート									
動物園									
公園									
教室									
トイレ									
学校									
運動場									
体育館									
プレイルーム									
ける									
転がす									
投げる									
踏む									
包む									
切る									

Ⅱ
段
階

<p>②物の性質や感じを表す言葉を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚（暑い、冷たい、寒い、臭いなど）を表す言葉を覚えて言う ・味覚（甘い、辛い、おいしい など）を表す言葉を覚えて言う ・気持ち（悪い、よい、こわい、うれしい など）を表す言葉を覚えて言う 	<p>・生活場面で観察する</p>	<p>・以下の単語でチェックする</p>						
			甘い						
			おいしい						
			すっぱい						
			暑い・熱い						
			冷たい						
			寒い						
			痛い						
			重い						
			臭い						
			かゆい						
			明るい						
			暗い						
			からい						
			固い						
			柔らかい						
			悪い						
			よい						
			こわい						
			うれしい						
			きれい						
			おもしろい						
			かわいい						
			好き						
<p>③遊んだり、絵、写真、を見たりする活動の中で、「誰が（と）<u>すもう</u>をしていますか」などと問われて、名詞レベルの言葉で答える</p>	<p>ア. 「すもうをしているのは、誰ですか」などと問われて、人の名前を言う</p> <p>イ. 「誰がすもうをしていますか」の問いに名詞で答える</p> <p>ウ. 「誰とすもうをしていますか」の問いに名詞で答える</p>	<p>・日常よく親しんでいる友だちや教師と活動したり、友だちや教師が活動しているのを見たりする中で、（すもう、長机運び）左記のように問う （写真で調べてもよい）</p>	<p>・活動している人の名前を言う</p> <p>・活動している人の名前を言う</p> <p>・相手の名前を言う</p>						

II 段 階	④遊んだり、絵・写真 を見たりする活動の 中で、「何を(で) ～していますか」 「何がありましたか」 などと問われて、名 詞で答える	ア. 「何を食べていますか」の問い に名詞で答える	・給食のときに左記のように問う	・食べものの名前を言う (牛乳、ジュース、パン、 ごはん など)						
		イ. 「何がありましたか」の問いに 名詞で答える	・箱の中に、はさみや果物模型な どを入れて置き、開けさせてか ら左記のように問う	・物の名前を言う						
	⑤遊んだり、絵・写真 を見たりする活動の 中で、「(～は)何 をしているの」 「(～を)どうした の」などと問われて、 動詞を表す言葉で答 える		・給食のときに「何をしているの」 と問う (ボール投げ)	・「食べている」と答える ・「ボールを投げた」と答える						
			・給食のときに「牛乳をどうした の」と問う (ボール投げ)	・「飲んだ」と答える ・「投げた」と答える						
	⑥学校でしたことや出 来事について話す とき、「どこで」「ど こで～したの」など と問われて場の名称 を答える	ア. 「ここはどこ」の問いに場の名 称を答える	・体育館、運動場、プレイルーム に連れて行き、左記のように問 う (子どもが「～へ行きなさい」 と言われて行ける場所で、自分 で言える場所で調査する)	・場の名称を答える (場所がわかる言い方なら ばよい)						
		イ. 「どこで～したの」の問いに場 の名称を答える	・体育館、運動場、プレイルーム で遊んだ後(すもう、野球など) 左記のように問う (子どもが「～へ行きなさい」 と言われて行ける場所で、自分 で言える場所で調査する)	・場の名称を答える (場所がわかる言い方なら ばよい)						

Ⅲ 段 階	①問いに応じて、誰、どこ、何をした（何をどうした）を入れて、自分のしたことを中心に話す		・『ラーメン作り』『砂場で遊ぶ』などの活動をした後、問いに応じて話させる。その際、まず、活動直後に全く違う場所で話させ、次に活動した場所で話させる 調査は、下記の番号の順に行う								
	ア。「誰と何をしましたか」と問われ、人と活動をつないで話す	・活動後、左記のように問う	・「〇〇君と～をしました」と言う								
	イ。「どこで何をしましたか」と問われ場所と活動をつないで話す	・活動後、左記のように問う	・「△△で～をしました」と言う								
	ウ。「『誰としましたか、どこでしたか、何をしましたか』がわかるように話してください」と問われて、話の中に人・場所・活動を入れて話す（子どもに問いを聞き取る力がついてくれば、「誰とどこで何をしましたか」と問われて人と場所と活動をつないで話す指導をしていく）	・活動後、左記のように問う	・話の中に人、場所、活動の3つが入っている								
	エ。「『誰としましたか、どこでしたか、何をしましたか』がわかるように話してください」と問われて話した後、「そのときどんなことをしましたか」と問われて自分のしたことをつけ加えて話す	・①イの問いの後、「そのとき、どんなことをしましたか」と問う	・2. 3文で活動について細かく話す								
②誰、どこ、何をした（何をどうした）を入れて自分のしたことや他の人のしたことを複数の文で話す	ア。「あなたのしたことをわかるように話してください」と問われて、人・場所・活動を入れて、自分のしたことを2～3文で話す	・活動後、左記のように問う	・人・場所・活動を入れて自分のしたことを2～3文で話す								

III 段 階	イ. 友だちのことをわかるように話してください」と問われて、人場所・活動を入れて他の人のことを2～3文で話す	・活動後、左記のように問う	・人・場所・活動を入れて他の人のことを2～3文で話す						
	ウ. 「あなたのしたことや友だちのしたことをわかるように話してください」と問われて、人・場所・活動を入れて自分のことや他の人のことをそれぞれ2～3文で話す	・『教室の清掃』を「黒板ふき」「窓ふき」「床ふき」などを分担して3人組で活動させた後、左記のように問う	・人・場所・活動を入れて自分のことや他の人のことをそれぞれ2～3文で話す						
IV 段 階	③問いに応じて自分のことや他の人のことを時間の順序にそって話す	ア. 「いつ」と問われて、時を表す言葉で話す	・昨日、今日、朝、昼、夜について子どもの生活から具体的に取り上げる						
			○「～したのはいつですか」	・昨日					
			○「×月×日は、いつですか」	・今日					
			○「奉仕活動は、いつしますか」	・朝					
			○「給食は、いつ食べますか」	・昼					
		○「布団で寝るのはいつですか」	・夜						
	イ. 「朝は、何をしたの、昼は何をしたの、夜は何をしたの」などと問われて、「朝は、～をしました。昼は、～をしました。夜は、～をしました。」と話す	・日曜日のことについて、左記のように問う	・「朝は、～をしました。昼は、～をしました。夜は、～をしました。」と話す						
IV 段 階	①自分のことや見たことを順序よく話す	・『ラーメン作りのこと』で「自分のしたことや見たことや友だちの様子がよくわかるように話しましょう」と言って話させ、その中に①②③がどのように入っているのかを分析する ①②③が判別できない場合は、それぞれチェック項目にそって調査する							
		ア. 自分のしたことをした順番に話す	○「『ラーメンの作りのこと』をした順番に話してください」と問う	・したことを前後して話していないか					

IV 段 階		イ. 自分の見たことを見た順番に話す	○『〇〇見学のこと（昨日のこと）など』の話題で「〇〇のことを見た順番に話してください」と言って話させる	・見たことを前後して話していないか							
	②自分のしたことや他の人のしたことを話すとき、「なぜ」と問われて理由を話す	ア. 「なぜ（どうして）～したの（言ったの）」と問われて、「～だから～しました」と話す	○『ラーメンの作り』の話題で「なぜ、ふたをしたのですか」などと問う	・「～だから～しました」と話す							
	③物や場所・自分や他の人のしたこと（言ったこと）の様子がよくわかるように複数の文で話す	ア. 「〇〇のことがよくわかるように話してください」と問われて、物や場所の様子を話す（音、色、形、におい、感触、数、状態 など）	○ラーメンのにおいのことがよくわかるように話してください」と問う（音、色などについてもそれらを含む話題で同様に調査）	・音、色、形などのことが話の中に入っているか							
		イ. 「〇〇のことがよくわかるように話してください」と問われて、自分や他の人の活動の様子を話す（使ったもの、状態、回数、時間、会話 など）	○「使ったもの、状態、回数、時間、会話」などと問う（状態などについてもそれらを含む話題で同様に調査）	・使ったもの、状態、回数などのことが話の中に入っているか							
V 段 階	①活動したことを順序にそって話す	ア. いくつかの場面を「～しました。～では、……。」とまとまりを表す言葉を使って順序にそって話す	○『ラーメンの作り』の話題で「準備、作るとき、食べるときに分けて話してください」と問う	・まとまりを表す言葉を使って順序にそって話せているか							
		イ. 場所、時間、場面をはっきりさせる言葉を使って順序よく話す	○『ラーメンの作り』の話題で「準備、作るとき、食べるときに分けて話してください」と問う	・「はじめに～、次に～、そして～、最後に～」を使って話す							
		・「～した後に～しました」	○『ラーメンの作り』の話題で「片づけはいつしましたか」と問う	・「～した後に～しました」と話す							

	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝には～、夕方になると～、次の朝～」 	<ul style="list-style-type: none"> ・『キャンプのこと』の話題で、「キャンプでどんなときにどんなことをしたかを話してください」と問う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝には～、夕方になると～、次の朝～」などと話す 						
②目的に応じて、詳しく話すところを決めて話す	ア. 話したいところだけの様子を詳しく話す	<ul style="list-style-type: none"> ・『動物小屋でしたこと』の話題で、「動物小屋でしたこと、見たことをお母さんによくわかるように話しましょう」と問い、左記ア. イについて分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で話したい部分だけを話す 						
	イ. 全体を話す中で、話したいところの様子を詳しく、その他は、要点だけを話す		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的なことを話した後、中心を作って話す 						

「聞く」の実態調査の仕方

1. 実態調査の仕方

(1) 評価の視点で、○、△、×をつけていく。

(2) 話すの実態の段階に合わせて、下記の順番をおって実態をとっていき、実態を取る段階の位置を決める。

- ・ V段階の〈指示・説明〉の①のア ○ V段階の実態を取る
 ↓×
- ・ IV段階の〈指示・説明〉の①のア ○ IV段階の実態を取る
 ↓×
- ・ III段階の〈物語〉の①のアと ○ III段階の実態を取る
- ・ III段階の〈指示・説明〉の①のア
 ↓×
- ・ II段階の〈物語〉の①のアと ○ II段階の実態を取る
- ・ II段階の〈指示・説明〉の①のア
 ↓×
- ・ I段階の実態を取る

(3) 実態を取る段階が決まったら、順番に小項目を取っていき、×が3つつくまで取っていく。また、前段階の最終小項目を取ってみて、△・×がつけば○がつくところまで下がる。ただし、〈物語〉〈指示・説明〉は別枠扱いとして、×が3つつくまで取っていく。

(4) 習得状況がわかるように、○になった項目には、月日を記入しておく。

2. 各段階ごとの実態調査の仕方について

I 段階

○準備物と選択の視点

〈物 語〉 2種類の動物が写っている絵本

(例) 「どうぶつなかよし」(講談社)

〈指示・説明〉 子どもが知っている物3種類

(例) マジック 鉛筆 本

II 段階

○準備物と選択の視点

〈物 語〉 何人かの登場人物があり、登場人物や活動がわかりやすい絵本

(例) 「はなのみち」(かざぐるま こくご1ねん)

〈指示・説明〉 子どもが知っている物3種類と友だち3人
場所は、学部内の範囲とする

(例) マジック 鉛筆 本

III 段階

○準備物と選択の視点

〈物 語〉 子どもがわかりやすい内容で、場面Vとの登場人物の動きに変化がある童話絵本

〈指示・説明〉 子どもが知っている物3種類と友だち3人
場所は、学部内の範囲とする

(例) マジック 鉛筆 本 バケツ 雑巾 ほうき

IV 段階

○準備物と選択の視点

〈指示・説明〉 子どもが知っている物3種類・各5個と友だち3人
場所は、学部内の範囲とする

(例) マジック 鉛筆 本 各5本または5冊

V 段階

○準備物と選択の視点

〈指示・説明〉 子どもが知っている物

ア. ウに関しては、学部内の範囲とする

(例) ア. バケツ 雑巾 掃除機 イ. 農具倉庫にあるもの

ウ. トイレットペーパー マジック 友だち一人

「聞く」の実態調査表

大項目		小項目	実態調査の仕方	評価の視点	評 価					
I 段 階	(物語) ①絵本や紙芝居を見聞きして、人・動物・物などを指さす	ア. 絵本やテレビを見聞きしながら、知っている人や動物や物などの名称を聞いて指さす	「動物なかよし」(講談社)の2種類の組み合わせの絵を見せ、人や動物の名称を言いながら、「猿はどれですか。指さしてごらん」と問う	尋ねた名称のとおり指させたら○ それ以外は×						
		イ. 絵本やテレビを見聞きしながら、知っている人や動物や物などの模倣を教師がするのを見て、同じように動作する	「動物なかよし」(講談社)の2種類の組み合わせの絵を見せ、人や動物の名称を言いながら、「先生と同じように猿のまねをしてごらん」と問う	猿のまねができたら○ それ以外は×						
	(指示・説明) ①基本的な動作を表す言葉を聞いて行動する	ア. 「立って」「座って」「礼」など、動作を促す言葉を聞いて、そのとおりに行動する	「座ってください」と言う	座れたら○ それ以外は×						
		イ. 「止まれ」「いけない」「あぶない」など、動作を制止する基本的な言葉を聞いて、行動を止めたり、避けたりする	一緒に行動するなかで、「止まれ」などと指示する	指示どおりできたら○ それ以外は×						
	②物と動作を表す言葉を聞いて行動する。	ア. 「○○を取ってください」「○○を入れてください」などの指示を聞いて行動する	鉛筆やマジックや本などを提示し、「本を取ってください」と指示する	指示どおりできたら○ それ以外は×						
		イ. 「○○を持って来てください」「○○を置いてください」などの指示を聞いて行動する	教室の隅に机を置き、その上に鉛筆やマジックや本などを提示し、「本を持って来てください」と指示する	指示どおりできたら○ それ以外は×						
II 段 階	(物語) ①絵本や紙芝居を見聞きしながら、登場人物などの特徴的な動きを聞き取る	ア. 絵本や紙芝居を見聞きしながら、登場人物の名前を言う	「はなのみち」(かざぐるま・こくご1ねん)を見せながら、くまの絵を指さし、「この人は誰ですか」と問う	「くま」と答えたら○ それ以外は×						
		イ. 絵本や紙芝居を見聞きしながら、登場人物の動作をまねたり、話したりする	「はなのみち」(かざぐるま・こくご1ねん)を見せながら、くまの絵を指さし、「くまはどんなことをしましたか」と問う	動作化したり、話したりして正しく答えたら○ それ以外は×						

II 段 階	(指示・説明) ①人と動作、場所と動作を表す言葉を聞いて行動する	ア. 人にかかわる指示を聞いて行動する	友だち3人を前に立たせ、鉛筆を持たせて、「Aさんに渡してください」と指示する	Aさんに渡したら○ それ以外は×							
		イ. 場所にかかわる指示を聞いて行動する	イスを手渡して、「プレイルームに持って行ってください」と指示する	プレイルームに行ったら○ それ以外は×							
III 段 階	(物語) ①物語の大まかな粗筋を、主役の活動の違いからつかみとる	ア. 場面ごとに主人公や出てくるもの人の動きをつかみ、動作で表したり、話したりする	「はなのみち」(かざぐるま・こくご1ねん)で、くまが袋の中から種を出している絵を見せながら、「誰が出てきましたか」と問う	くま、りすと答えたら○							
		イ. 物語に出てくる人や動物などのしぐさの面白さを動作で表したり、話したりする	「くまは何をしましたか」と問う	種を見つけたことを話したら○							
		ウ. 大まかな順序をおって、主人公や出てくる人たちの動きをつかみ、動作で表したり、話したりする	「くまがしたことを話して」と問う	種を見つけたこと、こぼしたことを話したら○							
IV 段 階	(指示・説明) ①物・人・場所・動作の組み合わせが合った指示を聞いて、大切なことをもらさずに聞き取って行動する	ア. 物と人にかかわる指示を聞いて行動する	教室に人(友だち3人)・物(鉛筆、マジック、本)を用意し、「鉛筆をAさんに渡してください」と指示する	指示通りできたら○ 鉛筆(マジック)が取れたら△							
		イ. 物と場所にかかわる指示を聞いて行動する	教室に人(友だち3人)・物(鉛筆、マジック、本)を用意し、「マジックをBさんに渡してください」と指示する	A(B)さんに渡したら△							
			バケツと雑巾とほうきを用意し、「バケツをプレイルームに置いてください」と指示する	指示通りできたら○ バケツ(雑巾)が取れたら△							
			バケツと雑巾とほうきを用意し、「雑巾を廊下に置いてください」と指示する	プレイルーム(廊下)に置いたら△							

<p>Ⅲ 段 階</p>	<p>〈指示・説明〉 ①物・人・場所・動作の組み合わさった指示を聞いて、大切なことをもらさずに聞き取って行動する</p>	<p>ウ。物と場所と人にかかわる指示を聞いて行動する</p>	<p>人（友だち3人）・物（鉛筆、マジック、本）を用意し、「鉛筆をプレイルームにいるAさんに渡してください」と指示する 人（友だち3人）・物（鉛筆、マジック、本）を用意し、「マジックをプレイルームにいるBさんに渡してください」と指示する</p>	<p>指示通りできたら○ 鉛筆（マジック） プレイルーム、A（B）さんのうち、2つができたら△</p>	
<p>Ⅳ 段</p>	<p>〈指示・説明〉 ①具体的な物・具体的な場所が含まれた指示の中から、大切なことを聞き取って行動する</p>	<p>ア。指示の中から、物の数・色・形を聞いて行動する</p>	<p>教室内で鉛筆5本、マジック5本を用意し、「鉛筆3本をAさんに渡してください」と指示する 教室内で鉛筆5本、マジック5本を用意し、「マジック5本をBさんに渡してください」と指示する</p>	<p>指示通りできたら○ 鉛筆3本（マジック5本）、A（B）さんのどちらか片方ができたら△</p>	
		<p>イ。指示の中から、場所の具体的な位置を聞いて行動する</p>	<p>鉛筆、マジック、本を用意し、「鉛筆を机の中に入れてください」と指示する 鉛筆、マジック、本を用意し、「マジックを机の上に置いてください」と指示する</p>	<p>指示通りできたら○ 物、場所、位置のうち、どちらか片方ができたら△</p>	
<p>階</p>	<p>②物・人・場所・動作が組み合わさった2つの指示を聞いて行動する</p>	<p>ア。物と人にかかわる2つの指示を聞いて行動する</p>	<p>教室内に鉛筆、マジック、本を用意し、「鉛筆をAさんに、マジックをBさんに渡してください」と指示する 教室内に鉛筆、マジック、本を用意し、「鉛筆をBさんに、マジックをAさんに渡してください」と指示する</p>	<p>指示通りできたら○ 鉛筆をA（B）さんに、又は、マジックをB（A）さんに渡せば△</p>	

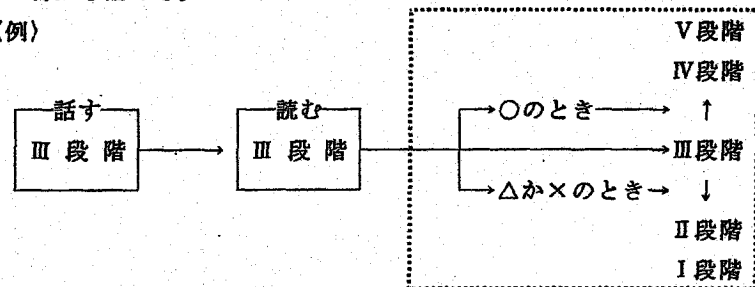
IV 段 階	②物・人・場所・動作が組み合わさった2つの指示を聞いて行動する	イ. 物と場所にかかわる2つの指示を聞いて行動する	教室内に鉛筆、マジック、本を用意し、「鉛筆を机に、本をオルガンの上に置いてください」と指示する	指示通りできたら○									
			教室内に鉛筆、マジック、本を用意し、「マジックを机に、鉛筆をオルガンの上に置いてください」と指示する	鉛筆(マジック)を机に、又は、本(鉛筆)をオルガンの上に置いたら△									
V 段 階	〈指示・説明〉 ①活動する順番や必要事項などを聞き取り行動する	ア. 話の中から、活動する順番を聞いて行動する	教室内にゴミ箱と水の入ったバケツと雑巾と掃除機を用意し、「ゴミを捨てて、次に窓のさんをふいて、次に掃除機をかけてください」と言う	指示通りできたら○									
			教室内にゴミ箱と水の入ったバケツと雑巾と掃除機を用意し、「窓のさんをふいて、次に掃除機をかけて、次にゴミを捨ててください」と言う	それ以外は×									
		イ. 話の中から、必要な準備物を聞いて行動する	農具倉庫の前に連れて行き、「Aさんはクワとカマを、Bさんは、スコップと一輪車を取って来てください」と言う	指示通りできたら○									
		ウ. 話の中から、注意事項を聞いて行動する	クワを示し、「クワを扱うときは掘る所を見る、振り回さない」と言ってから、「何に気をつければよいか」と問う	それ以外は×									
		エ. 話の中から、判断を伴う注意事項や準備物を聞いて行動する	トイレトペーパーの紙を無くしておいて、「トイレに行ってトイレトペーパーがなかったら、つけてください」と言う	指示通りできたら○									
			トイレの水を流しておき、「トイレに行って、水道の水が流れていたら止めてください」と言う	それ以外は×									

「読む」の実態調査の仕方

1. 実態調査を始めるにあたって

- (1) 調査表は、5段階に分けている。記入は、○(できる) △(できることがある) ×(できない) である。
- (2) 調査は、「話す」で位置している段階と同じ段階の大項目①の小項目アから始める。そこが、△か×のときは、一つ前の低段階の大項目から始める。

(例)



- (3) 調査は、調査をしている小項目に△や×がついても、その段階をすべて実施してから終わるようにする。
- (4) 最後についた○の枠の中に、調査した年月日を記入すること。

2. 各段階の実態調査の仕方

〈I 段階〉 (①や②は、大項目を表わす)

準備物：①本人のかばん、帽子、くつ ②☆の教科書

仕方：①教室内のロッカーに、子どもたちの印や名前を貼っておき、その場所にかばん、帽子を置かせる。また、違う印や名前のついたそれぞれ3つのかばんや帽子の中から、自分の物を選ばせる。

②☆教科書を実態表に示されたところを見せて問う。

〈II 段階〉

準備物：①・あ い う え おの文字カードをそれぞれ5枚

・くつ のり ほんの語句カード

・はし くろ いすの語句カードと、それぞれの絵カード

・はさみ つくえ えんぴつの語句カードとそれぞれの絵カード

ード

仕方：①実態表に示されたように問う。

〈III 段階〉

準備物：☆☆教科書

仕方：教科書は、2回読ませた後、実態表に示されたように問う。

〈IV 段階〉

準備物：☆☆教科書

仕方：教科書の「にんぎょうのつくりかた」と「かぶとむし」は、2回読ませた後、実態表に示されたように問う。「金のおの」は、3回読ませた後、それぞれの小項目について問う。

〈V 段階〉

準備物：☆☆☆教科書

仕方：教科書の「目玉焼き」は、2回読ませた後、実態表に示されたように問う。「かさじぞう」の全文は、3回読ませるが、ページを指定されている項目は、2回読ませた後で問う。

「読む」の実態調査表

読む①

大項目		小項目	実態調査の仕方(教材と発問)	評価の視点	評価(○できる △できることがある ×できない)					
I	①自分の印や名前がわかる	ア. 自分の印がついた所へ、かばんや帽子を置く	自分の印(動物のマーク)の所へ、「かばん(帽子)をしまってください」と問う	自分の印の所へ持って行ったか						
		イ. 印を見て、自分のくつや帽子などを選ぶ	違う印がついた3つのくつ(帽子)を見せ、「○○ちゃんのはどれ」と問う	自分の印がついた物を選ぶか						
		ウ. 自分の名前を書いている所へ、かばんや帽子などを置く	ロッカーへ名前を貼っておき、「かばん(帽子)をしまってください」と問う	自分の名前の所へ持って行くか						
		エ. 名前を見て、自分のくつや帽子などを選ぶ	違う名前がついた3つのくつ(帽子)を見せ、「○○ちゃんのはどれ」と問う	自分の名前がついた物を選ぶか						
II	②絵や図形の異同がわかる	ア. いくつかの絵(図形)の中から、同じ物や違う物を探す	☆教科書P42(犬と猿)の絵を見せて、「これと同じ(違う)物はどれ」と問う	同じ絵を指さす 違う絵を指さす						
		イ. いくつかの絵(図形)の中から、大きさの同じ物や違う物を探す	☆教科書P43(りんごの絵)を見せて、「これと同じ大きさの物はどれ」「大きさの違う物はどれ」と問う	大きさの同じ絵を指さすか 違う絵を指さす						
		ウ. いくつかの絵(図形)の中から、上下の向きの同じ物や向きが違う物を探す	☆教科書P42(女の子の絵)を見せて、「同じ物はどれ」「違う物はどれ」と問う	上下の向きの同じ絵を指さすか 違う絵を指さす						
		エ. いくつかの絵(図形)の中から、左右の向きの同じ物や向きが違う物を探す	☆教科書P43(アヒルの絵)を見せて、「同じ向きはどれ」「違う向きはどれ」と問う	左右の向きの同じ絵を指さすか 違う絵を指さす						
II	①文字を読んだり、簡単な語句を読んで言葉の意味を理解したりする	ア. 同じ文字を集めたり、探したりする	あ い う え おの文字カードを5枚ずつ用意して、「あと同じ文字はどれ」などと問う	あ 文字 い 文字 う 文字 え 文字 お 文字						
		イ. 文字や2音節程度の語句を読む	くつ のり ほんの語句カードを見せ、「読んでください」と問う	「くつ」と読むか 「のり」と読むか 「ほん」と読むか						
		ウ. 2音節程度の語句を読み、言葉の意味を理解する *語句カードと絵や実物とのマッチング	はし くち いすの語句カードを読ませて、「これと同じ絵カードはどれですか」と問う	はしを指さすか くちを指さすか いすを指さすか						

II 段 階	①文字を読んだり、簡単な語句を読んで言葉の意味を理解したりする	エ. 3～4音節以上の語句を読み、言葉の意味を理解する	はさみ つくえ えんびつの語句カードを読ませて、「これと同じ絵カードはどれですか」と問う	はさみ つくえ えんびつ																			
III 段 階	①誰、どこ、何をしたがが入った短い文章を読み取る		*☆☆教科書P45(ありとはと)を読ませて																				
		ア. どんな登場人物が出てきたかを読み取る	a 「誰と誰が出てきましたか」と問う	ありと鳩と猟師																			
		イ. 登場人物は何をしたかを読み取る	b 「ありは何をしましたか」と問う	猟師の足にかみついた																			
			c 「鳩は何をしましたか」と問う	木の葉を落した																			
			d 「猟師は何をしましたか」と問う	鳩を弓で撃とうとした																			
ウ. 場所はどこかを読み取る	e 「場所はどこですか」と問う	池のあるところ																					
			f 「どんなお話でしたか」と問う	a b c d eを入れて話すか																			
IV 段 階	①出来事やことがらの順序にそって、人物の言動や出来事の結果、ことがらの大体を読み取る	ア. 「初めに○○をする」「次に○○をする」など、説明されていることがらの順序を読み取り、ことがらの大体を読み取る	*☆☆教科書P59(にんぎょうのつくりかた)を読ませて																				
			a 「最初に何をしますか」と問う	順序ごとに読み取って、ことがらの大体を読み取ることが出来るか																			
			b 「次に何をしますか」と問う																				
			c 「次に何をしますか」と問う																				
			d 「次に何をしますか」と問う																				
			e 「最後に何をしますか」と問う																				
		f 「順序をまとめて話してごらん」と問う																					
イ. 時間の推移にそって、「だれが、どうした(どう言った)」「なにが、どうだ」「なにが、どうなった」を読み取る (物語文)	*☆☆教科書P68～70(金のおの)の全文を読ませて																						
a 「きこりは何をしていましたか」と問う	木を切っていた																						
b 「それから、どうなりましたか」と問う	おのを池に落とした																						
c 「池の中から、何が出てきましたか」と問う	神様																						
d 「どんなお話でしたか」と問う	a b cを入れて話すか																						

IV	②人物や物の様子、場面の様子を読み取る	ア. 人物の様子（身なり、年齢など）や行動の様子（使った物、状態、回数、時間、会話など）を読み取る	*教材は、①イに同じ a 「神様はきこりに何と仰いましたか」と問う b 「きこりは、何を使って働いていましたか」と問う	私が取ってあげよう おの																
		イ. 物の様子（音、色、におい、形、状態、仕組みなど）を読み取る	*☆☆教科書P41（かぶとむし）の全文を読ませて a 「おすのかぶと虫には、何がありますか」と問う b 「どんなはねを持っていますか」と問う	つの かたいはねと、やわらかいはね																
		ウ. 場面の様子や情景（音、色、状態など）を読み取る（物語文）	*教材は、①イに同じ a 「きこりはどこで木を切っていましたか」と問う b 「神様は、どんな色のおのを持ってきましたか」と問う	池のそば 金のおの 銀のおの 鉄のおの																
	③文章中の出来事について、どうしてそうなったか、どうしてそうなのかを読み取る	ア. 出来事について、前後の文章から、どうしてそうなったのかを読み取る（物語文）	*教材は、①イに同じ a 「きこりは、どうして泣いたのですか」と問う	おのを池に落とした																
		イ. 説明されていることがらについて、どうしてそうなのかを読み取る（説明文）	*教材は、②イに同じ b 「どうして空を飛ばすか」と問う	やわらかいはねがある																
	④文章を読んで感想を持つ	ア. 前後の文章から、人物（物）の気持ちを読み取る（物語文）	*教材は、①イに同じ a 「おのを落としたきこりは、どんな気持ちでしたか」と問う b 「悪いきこりが、わざと池におのを投げ込んだのはなぜですか」と問う	困った かなしい 金のおのをもらいたい																
イ. 文章を読んで、どこがどんなふうに面白かった（こわかった、かわいそうだった）のかを中心に、感想を持つ（物語文）		*教材は、①イに同じ a 「文章を読んで、面白かった所やかわいそうなどころがありましたか」と問う b 「神様をどう思いましたか」と問う	きこりが池におのを落としたのがかわいそう やさしい																	

V	③文章中の出来事について、因果関係や目的を読み取る	イ. 出来事やことがらについて、「何のためにそうしたのか」「何のためにそうなったか」を読み取る	*かさじぞう P111を読ませて a 「おじいさんは、何のためにお地藏さまにかさをかぶせたのですか」と問う	寒いから								
	④文章のまとめや場面ごとに、何について書いてあるのかを読み取る	ア. 場面ごとに、何のことが書かれているか、どうなったのかを読み取る	*かさじぞう P112について a 「どんなことを書いていましたか」と問う	かさをかぶせたが、一つ足りずに自分のかさをかぶせて帰った								
イ. 文章のまとめごとに、何のことが書いているか、どうなったのかを読み取る		*かさじぞう P113について a 「それぞれ、どんなことを書いていましたか」と問う	おばあさんは、話を聞いて喜んだ 眠っていると歌が聞こえてきた									
階	⑤文章を読んで感想を持つ	ア. 登場人物（物）の様子や言動から、そのときの気持ちを読み取る	*かさじぞう P112について a 「おじいさんは、どんな気持ちで、自分のかさをお地藏さまにかぶせたのだろう」と問う	一人の地藏さまだけかさをかぶらないのは、かわいそうだ								
		イ. 登場人物の立場に立ち、自分だったらどうするか、どんな気持ちなのかを想像する	*かさじぞう P113について a 「おじいさんが地藏さまにかさをかぶせた話を聞いて、おばあさんは喜んだが、あなたならどう思いますか」と問う	「よいことをした」と言う								

『書く』の実態調査の仕方

1. 実態調査をするにあたって

○実態調査は、次のような視点で観察された段階から始めればよい。

視 点	調査を始める段階
絵を書いたり、落書きをしたりするが、文字は書けない。	I段階より
視写したり、なぞったりして文字を書く。	II段階③より
一人で日記や文を書く。	III段階より

○実態調査は、×が続けて3回つくところまででやめてよい。ただし、

I～III段階は、小項目すべてを調査する。







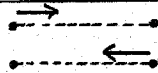

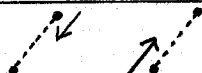



○調査は、可能であれば、集団で行ってよいが、子どもの活動が、子ども同士の間で影響しあわないように配慮する。

2. 実態調査の方法

内容	準 備 物		方法
	準 備 物	準備する時の注意事項	
I	<ul style="list-style-type: none"> 色鉛筆、またはクーピー、クレヨン なぞり書き用紙 (6種類) 	<ul style="list-style-type: none"> 小項目の線と同じもの (B6版) 	調査表参照
II	<ul style="list-style-type: none"> 筆記用具 ① なぞり書き用紙 ② 図形の絵 記入用紙 ③ア 実線で書いた50音 点線で書いた50音 イ 10種類程度の身近なものやその絵、写真 友だちの写真 	<ul style="list-style-type: none"> 小項目の線と同じもの 2枚ずつ (B6版) 小項目の図形と同じもの 5×5程度の大きさ 5×5程度の大きさ 子どもが知っているもの 清音の名前であること 50音に重なりが少ないように配慮すること 4～5音節程度までのもの 同上 	調査表参照

内容	話 題		方 法
	話 題	話題選択の視点	
III	<ul style="list-style-type: none"> 「ラーメン作りのこと」 「すもうごっこのこと」 	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わりのあるもの 主格がはっきりしているもの 場のはっきり分かるもの 構文力を見るものなので、その話を書けるような写真や絵で書かせてもよい 	<p>○調査表の★から、始める。その中に①～③までのものがどのように書かれているか見る。</p> <p>△×のものについてのみ、①～③の項にそって調査する。</p>
IV	「ラーメン作りのこと」	<ul style="list-style-type: none"> 自分の活動がとらえやすく、他の人の活動も分かりやすいもの 順序性のあるもの (場面に移り変わりがあるもの) 様子やいろいろな特徴のある物や人や場の含まれているもの 	<p>○調査表の★から、始める。その中に①～②までのものがどのように書かれているか見る。</p> <p>△×のものについてのみ、①～②の項にそって調査する。</p>
V①	「動物小屋を見に行ったこと」	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたことや、何かを見たことが、含まれているようなもの 	
③	(手紙)	<ul style="list-style-type: none"> 身近に感じている人にだすものである 	
④ア	(おしらせ)	<ul style="list-style-type: none"> 順番を待っているものであること 	

	大項目	小項目	実態調査の仕方(教材と発問)	評価の視点	評価(○できる・△できることがある・×できない)						
0 段 階	マジック・クレヨン ・ペンなどで自由に 描画活動をする	・点描きをする ・横線描き、縦線描きをする ・うず巻きを描く	○画用紙にマジックやクレヨンで線を描いて見せ、まねをさせる	まねをして描けるか							

	大項目	小項目	実態調査の仕方(教材と発問)	評価の視点	評価(○できる・△できることがある・×できない)							
I 段 階	①直線や曲線の実線や点線のなぞり書きをする	・横線	 のなぞりかきをさせる	線からはずれていても、だいたいなぞれているか								
		・縦線	 のなぞりかきをさせる									
		・破線	 のなぞりかきをさせる									
		・横らせん	 のなぞりかきをさせる									
		・縦らせん	 のなぞりかきをさせる									
		・うずまき	 のなぞりかきをさせる									
II 段 階	①決められた始点から終点まで、直線や曲線をなぞって書く	・ア.	 のなぞりかきをして見せた後、実際にさせる	始点、終点、方向が意識して書かれているか 線からはずれていても、だいたい合っていればよい								
		・イ.	 同上									
		・ウ.	 同上									
		・エ.	 同上									
		・オ.	 同上									
		・カ.	 同上									
	②簡単な図形をまねて書く	○	○の図形を見せて、して見せた後実際に描かせる	線が閉じているか								

II
段
階

	V	V	同上	ほぼ形がとれたか						
	◇	◇	同上	角の数はよいか						
	□	□	同上							
	+	+	同上	2本の線が交差しているか						
③ひらがなで簡単な語句を正しく書く	ア、清音を書く	・実線をなぞって書く	50音について画数の少ないものから調べていく	○実線文字をなぞらせる	その文字として判読できるか					
		・点線をなぞって書く		○点線文字をなぞらせる						
		・視写する		○文字カードを側に置いて見せ、まねて書かせる						
		・聴写する		○「あ」などと言って、書かせる						
イ、清音で構成された語句を書く				○「名前を書いて」と言って、名前を書かせる	ひとりで書けるか *名前を覚え間違っていたり、清音練習のために、間違っていたりする場合は、よいことにする 「りんご」→りんご					
				○子どもの知っているもので、清音で構成された4~5音節の名前のものを見せて、「これは何かな、名前を書いて」など言って、書かせる <small>*右記のものは、一例である。同じ文字がダブらないように、5個以上はとってみる</small>		め				
						くつ				
						あし				
						みかん				
						はさみ				
						はれ				
						あめ				
						くもり				
				おかあさん						
○子どもの知っている友だちや先生の写真を見せて「誰ですか」といって、名前を書かせる										

			<p>☆『ラーメン作りのこと』で、「自分のしたことや見たことや友だちの様子がよくわかるように書きましょう」と言って作文を書かせ、その中に①②③がどのように入っているかを分析する</p> <p>①②が判別できない場合は、それぞれのチェック項目に沿って観査する</p>							
IV 段 階	①自分のしたことや見たことを順序よく書く	<p>ア. 行動した順番通りに、事実を並べて書く</p> <p>「着替えをしました。スリッパをはいて、着替えをしました。泳ぎました。すいかかりをしました。」</p>	<p>○『そうじのこと（〇〇の時間のこと・〇〇作りのこと・給食室の見学など）』の話題で、「〇〇のことをした順（見た順）に書いてください」と言って、作文を書かせる</p>	<p>したことや見たことが前後せず書かれているか</p>						
		<p>イ. 場面の移り変わりにしたがって、事実を並べて書く</p>	<p>○『〇〇見学のこと（昨日のこと）』の話題で、「〇〇のことをした順（見た順）に書いてください」と言って、作文を書かせる</p>	<p>場面のまとまりごとに、事実が書かれているか</p>						
	②自分のしたことや見たことのように詳しく書く	<p>ア. 物や場所の様子を、形容詞や擬態語、擬声語を使って書く</p> <p>感覚的にとらえて「-は、ざらざらしていました。」 動きをとらえて「-は、クルクルうごいていました」</p>	<p>○『動物の観察（掃除機の様子・目覚まし時計）』の話題で、「〇〇のことについてよくわかるように書いてください」と言って、作文を書かせる</p>	<p>音・色・形などに書いているか</p>						
		<p>イ. 物や場所の様子に対して、自分の思ったことや感じたことを書く</p> <p>「きれいだな」「こわかった」「いたかった」「びっくりした」</p>		<p>形容詞や擬態語や擬声語を使っているか</p>						
		<p>ウ. 人や活動の様子をとらえて詳しく書く</p> <p>人の特徴をとらえて(表情・服装・使ったもの) 「-はおこっていました」 「-は、めがねをかけています」 言葉をとらえて「-は、『……』と言いました」 動きの特徴をとらえて「-は、足を高く上げて走っていました。」</p>		<p>物や場所の様子に対し思ったことや感じたことを書いているか</p>						
		<p>エ. 人や活動の様子に対して自分の思ったことや感じたことを書く 「やさしそうだな」「すごいな」</p>		<p>特徴について書いているか</p> <p>言葉について書いているか</p> <p>動作について書いているか</p> <p>思ったことを書いているか</p>						

V 段 階	①自分のしたことや見たことの中から書きたいことを決めて事柄のまとまりごとに順序よく書く	ア. どこからどこまで書くかを決めて、題をつけ、題にあったことだけを順序よく書く イ. 事柄のまとまりごとに順序よく書く	○『動物小屋を見に行ったこと』で、「自分が一番書きたいことを決めて、題をつけて、様子がよく分かるように順序よく作文を書きましょう」と言って作文を書かせる	書くことを決めて題をつけたか																
	②自分の感想を入れて順序よく書く	ア. 自分のしたことに対して感じたことや考えたこと、反省を入れて文章を書く 「おもしろくなかったから、行かなければよかったと思いました。」	○『動物小屋を見に行ったこと』で、「自分が一番書きたいことを決めて、題をつけて、様子がよく分かるように順序よく作文を書きましょう」と言って作文を書かせる	したことに對して感想や考えを入れて書いたか																
		イ. 見たものに対して、思ったことや考えたことを入れて文章を書く 「かわいいから、ほしくなりました。」		見たことに對して感想や考えを入れて書いたか																
	③自分のしたことや見たことの様子を詳しく書く	ア. 物や場所の様子を形容詞や比喩的表現を使って詳しく書く 「～みたいでした。」「まるで～のようでした。」	○『動物小屋を見に行ったこと』で、「自分が一番書きたいことを決めて、題をつけて、様子がよく分かるように順序よく作文を書きましょう」と言って作文を書かせる	人や物や場所の様子を詳しく書いているか																
		イ. 人の様子を比喩的表現を使って書いたり、原因やわけを入れて書いたりする 「おばあちゃんみたいでした。」「一生懸命頑張ったので、汗が出ました。」		①②③がすべてみたされているか																
	④目的に応じて知らせたいことや中心になることを書く	ア. 手紙文で書き出しと結び、用件をわけ、用件を書く	○『〇〇先生への手紙』で「自分のこと一番知らせたいことを書いたり、先生に聞きたいことを書いたりしよう」と言って、手紙を書かせる	書きだしのあいさつが書けたか																
				結びのあいさつが書けたか																
		イ. 大切なことを聞き取ったり、読み取ったりしてメモをする	○「一番に体育館に行きます。2番に保健室、3番に～、4番に～に行きます」と言って、「順番をメモしてごらん」と言ってメモさせる	一番知らせたいことを書いているか																
聞きたいことを書いているか																				
			番号をつけているか																	
			短く書いているか																	
			体育館又は体育館に行く																	
			横又は縦に順に書いているか																	